

青少年海外派遣 事業報告

市内の中学生8人を、夏休み期間の約1カ月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州(トレインシー・ロスバノス・マンティカ)のそれぞれ三つの都市に研修生を派遣しました。

この事業は、アメリカの一般家庭にホームステイしながら、市民・社会・学校生活などを体験し、異文化学習と国際感覚の育成を図ることを目的としています。具体的には、午前にはアメリカの文化や生活習慣などについての授業を受け、午後からは社会見学・文化交流会・ボランティア活動・レクリエーションなどを行います。また、有名な観光地、名所旧跡、国立公園などを視察研修し、週末は、各自ホストファミリーと過ごす内容です。



アメリカ合衆国 United States of America

ホームステイ先はヨセミテ国立公園のあるカリフォルニア州。アメリカ西部、太平洋岸の州で、人口はアメリカ合衆国最大の約3,548万人。州都はサクラメント。

楽しかった、そして、成長した夏の思い出...



ロスバノス
川内南中学校2年生
原 広夏さん

自分にとって新しい自分を見つけることができ、将来の人生に大きなきっかけを与えることができました。



トレインシー
高江中学校2年生
橋口 尚人さん

アメリカでたくさんの方と交流し、思い出ができました。この経験を今後の社会のために生かしていきたいです。



トレインシー
水引中学校2年生
湯浦 風沙さん

英語が通じないときもありましたが、身ぶり手ぶりを交え、何とか1カ月無事に乗り切ることができました。



トレインシー
入来中学校1年生
石神 昇さん

書で多くの単語を勉強しましたが、これからこの出会いを大切にしたいです。



ロスバノス
川内北中学校1年生
青崎 春菜さん

ホストファミリーの子どもと折り紙や縄跳びをしました。異国の文化を学び、また、メンバーや先生たちにも出会えてよかったです。



マンティカ
川内北中学校1年生
田島 正俊さん

多くの方々の支援を受けてホームステイすることができたのだと思います。このような機会を与えていただいたことに感謝します。



マンティカ
海星中学校1年生
中野 正貴さん

ホストファミリーの家の大きなトランポリンの上で、夜空を眺めながら一緒に寝たことが忘れられない思い出です。また、会いに行きたいです。



トレインシー
れいめい中学校3年生
小牧 聖月さん

四苦八苦しながら伝えた英語を理解してもらえた時が一瞬うれしかった。理解しようとする心が分かることに楽しさを感じました。

①ホストファミリーとの記念写真(左から3番目が石神さん)②マシュマロパーティー(前列左側が湯浦さん)③みんなで楽しい昼食(左から2番目が橋口さん)④ボーイズ&ガールズクラブ(前列右端が小牧さん)⑤ホストシスターとブラザーと一緒に(右から2番目が青崎さん)⑥文化を知る時間の一場面(中央が原さん)⑦デブラとコリーン先生(中央が中野さん)⑧にぎやかなホストファミリー(前列中央が田島さん)



施政方針の概要

8月19日(火)、平成20年第3回市議会定例会で、森卓朗市長が述べた市政に関する考え方や方針の概要を紹介いたします。なお、全文は市ホームページに紹介しています。



私の市長としての任期も、残すところ3カ月弱となりました。平成14年10月の川西薩任意意合併協議会、平成15年7月の川薩地区法定合併協議会を経て、平成16年10月12日、平成の大合併では県内で先陣を切った市町村合併により本市が誕生しました。市民の皆さまの温かい御理解と御協力により、市政も順調に進展していることに、厚くお礼申し上げます。

取り巻く状況は予断を許さないものと考えています。一方で、合併後にラムサール条約に登録された蘭牟田池をはじめ、文化庁から国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産リストに提案された甌島のトシドン、国の重要無形民俗文化財に指定された東郷文弥節人形浄瑠璃、県の無形民俗文化財に指定された川内大綱引や長目の浜など、本市の宝が国内外から高い評価を受けています。これら本市特有の多様な地域資源が今、輝こうとする様は、マニフェストの「スローガン」地域の宝を磨き、つくり出す、人まち輝く薩摩川内市そのもので、ほかの市町村にないものと自負しています。この宝を市民の皆さまと協働して保全し、次世代に引き継ぎながら地域振興に生かせればと願っています。

本市をめぐる 最近の動きについて

原油価格高騰
原油価格の高騰に伴う肥料や農業資材などの急騰により、農家は、経営危機に直面しています。このような状況を踏まえ、市としては、国や県に対し、その対策などに早急に取り組むよう要望を続けるとともに、今回の補正予算案において、原油価格等高騰緊急対策として、施設園芸原油価格高騰緊急対策事業補助金などの国・県補助事業や市単独による助成対策費を計上したところです。また、漁船の燃料であるA重油の価格が、平成16年と比較し、約3倍近くまで値上がりしたことで、漁業者の経営も危機的状況に陥っています。市としましては、国、県の原油高騰対策である施設等整備補助事業と併せて、県内市町村では初めてとなる漁業用燃油価格助成事業補助金として、漁船の燃油値上がり分の一部を漁業者へ補助することにしました。

**薩摩川内市
行政改革推進委員会提言**
薩摩川内市行政改革推進委員会から支所の見直しに関する「さらなる『市民が主人公となる市政』推進の一環として新センターを設置する提言」を受けたところです。この件については、従来から私の任期中に支所再編は行わないと表明していましたが、川薩地区法定合併協議会で策定し、新市に引き継いだ薩摩川内市まちづくり計画の変更議決および支所設置条例の改正議決が必要となる重要な事案ですので、今後、多面的な検討が必要と考えています。

**県産業廃棄物
管理型最終処分場**
県産業廃棄物管理型最終処分場については、8月6日に伊藤県知事と面談し、地元への説明の在り方や徹底した情報公開、施設の安全性、地域振興などについての意見交換を行ったところです。この中で、私も求めていた県知事による再度の地元説明についても今月中に実現する見通しとなり、さらには、本市の意見も聴かれていますので、地域の皆さまの御意見、市議会の議決、県の立地可能性等調査結果を踏まえて、市としての意見を取りまとめます。

一般会計補正予算
急激な原油などの価格高騰に対し、緊急に実施すべき施策および不足する経費などについて

結びに
平成16年11月、初代の市長として就任して以来、本市の将来に夢と希望を託された市民の皆さまの御期待に沿うべく、本市の輝く将来像の構築に「地域全体の協調・融和」を第一義として努力してきましたが、今限りで引退することになりました。私に与えられた残りの任期中は、最後の力を振り絞って、職務に当たりますが、山積する課題については、新たに選出される市長へ引き継ぐこととなりますが、市民の皆さまならびに議員各位、そして市がお互いに創意工夫し、英知を結集して対処すれば、必ずや、「輝く薩摩川内市」が築けるものと確信しています。

